資料１９

令和６年度 第４回沖縄県がん診療連携協議会 医療部会議事要旨

日　時：令和６年 10 月 28 日 （月） 15：00～16：30
場　所：Zoom を利用した Web 会議
参加者：６名
有賀拓郎(琉球大学病院) 、伊江将史(県立中部病院)、照屋淳(北部地区医師会病院)、松村敏信(県立八重山病院)、金城達也（琉球大学大学院)、増田昌人(琉大病院がんセンター)
欠席者：４名
安次嶺宏哉(沖縄協同病院)、新里雅人(県立宮古病院)、外間早紀子(沖縄県保健医療介護部健康長寿課)、宮里浩(那覇市立病院)
陪　席：１名
谷口典子(琉大病院がんセンター)

【報告事項】

1.令和 6 年度 第 3 回医療部会議事要旨について
・有賀部会長より、資料１に基づいて説明があり、各自目を通して提案・指摘等あれば、報告をすることとなった。

2.ロジックモデルと指標の活用の仕方を身につける研修会について
・有賀部会長より、資料２について説明があった。

3.その他
特に無し。

【協議事項】
１．所掌分担領域の進捗の評価について
・資料３については現在、41 市町村に対するアンケート調査は約 90%が完了しており、さらに医療機関に対するアンケート調査も 85%が終わったところ。回収済みのデータに関しては、次回の部会で全て提出できる見込みと増田委員より報告があった。
２．本年度部会重点事項：専門医資格を持った医療者の養成とその適正配置をする施策について（資料５）
・沖縄県では 2019 年に１人、今年１人のがん薬物療法専門医が増え、現在６人である。全国で 1758 人の専門医がいる中で、沖縄県の専門医は非常に少ない。
沖縄県では一人増えるだけで割合が大きく増えると増田委員より指摘があった。

・沖縄県の消化器外科専門医の数が 2015 年の 37 人から今年は 85 人に増加した。過去に比べて専門医試験のハードルが下がり、論文数の要求が緩和されたことが増加の要因と考えられるとの結論に至った。

・大腸肛門病専門員の数は微々たるもので、沖縄県の状況も全国平均に比べて低い。
肛門病に関しては、IBD（炎症性腸疾患）を扱う医師が多く、他の医師はあまり参加していない状況との結論に至った。

・次回開催時は、今回提示できなかった 26 の病院についてのデータを提示すると増田委員より報告があった。

・沖縄県は医療者調査での認識が悪く、高齢者機能調査を行っていない・高齢者技能者がゲノム医療に対する理解が乏しいと増田委員より指摘があった。
集約型分散化に関する会議を琉大で行うことについて、協議会に提案する予定。
症例数を見ている病院の先生と腫瘍内科・放射線治療の先生に参加いただき議論したい。年明けに各委員に依頼することになると思うと増田委員より発言があった。（この件については資料無し。）

・

3．次回の開催日程について
次回開催日については、メールで連絡することとなった。

4．その他
特に無し。